

第 36 回 渋谷健一奨励賞

本賞は、渋谷健一先生（元本学理事長）の本学創立百周年を記念した篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、本学に在学する学生のうち、学術、文化、体育等の活動を通じて、卓越した成果を収めた者（団体を含む）を対象に授与するものです。

【学術・文化の分野（個人）】

富 樫 穂 南	法学部 3年	多数の国際ピアノコンクール(オンライン開催)で入賞、ニューヨークで行われたコンクールにて優勝、カーネギーホールでの受賞記念演奏会出演。
手 塚 ゆ か	理工学部 4年	ノイズの多い水中音の異常検知に関して、非負値行列因子分解を用いた、新しい統計的アルゴリズムを提案し、密漁検知への適用を行った。
秋 庭 啓 吾	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	第40回人間情報学会オールセッション発表において、研究発表が最優秀賞を受賞するなど顕著な研究業績を挙げた。
板 垣 廉	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	二液相間移動型光触媒電子輸送系構築に関する学術論文を被推薦者が第一著者としてDalton Transaction誌に掲載され、国内および国際学会の計5件で被推薦者本人が発表し、うち「錯体化学会第72回討論会」および「第12回CSJ化学フェスタ2022」にて「優秀ポスター発表賞」を受賞した。
伊 藤 文 臣	理工学研究科 博士課程後期課程 精密工学専攻	2022年10月27日、The 2022 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2022) にて、Instantaneous Force Generation Mechanism Based on the Striking Motion of Mantis Shrimp=Design and Control Method of Cavitation by Simulation and Experiment という題目の発表をし、SICE International Young Authors Award for IROS 2022を受賞した。
押 野 紗 菜	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	2022年11月26日、The 19th IEEE Transdisciplinary-Oriented Workshop for Emerging Researchers (TOWERS) にて、蠕動運動型ポンプの加速度センサによる挙動計測に関する研究成果を発表し、IEEE TOWERS WIE Best Awardを受賞した。
影 山 湧 二	理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子情報通信工学専攻	新型コロナのような新規ウイルスの出現に対応するために、誘電スペクトロスコピーを用いた微生物の定量的計測手法を開発し、抗ウイルス薬開発でのドラッグスクリーニングに応用できることを示した。
金 澤 立 哉	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	・公益社団法人自動車技術会 大学院研究奨励賞受賞 ・日本音響学会2件および自動車技術会1件の講演発表
木 下 祐 哉	理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子情報通信工学専攻	昨年11月に都内で開催された国内学会において、筆頭講演著者として口頭形式の研究発表を行い、全登壇者の中から優れた講演に与えられる学会賞を受賞。
紅 林 照 也	理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子情報通信工学専攻	第五世代移動通信システムにおける基地局の配置問題に関する卓越なる研究
高 山 夏 実	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	ナノメートルスケールのヘモグロビン粒子からなる新しい人工酸素運搬体（赤血球代替物）を合成し、その構造と機能を明らかにした。粒子内部に酵素カタラーゼを残したストロマフリーヘモグロビンを使用することにより、高い抗酸化能が付与され、酸素錯体の安定性は著しく向上した。本研究の成果は、人工血液の実用化に突破口を開くものであり、先進医療に大きな貢献をもたらすものと期待されている。
酒 井 大 揮	理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子情報通信工学専攻	今年度8月の国際学会（フィンランド）及び11月の国内学会（那覇）にて筆頭著者として研究発表を行い、優れた講演に与えられる学会賞をそれぞれ受賞
澤 橋 龍 之 介	理工学研究科 博士課程後期課程 精密工学専攻	①2022年11月26日、The 19th IEEE Transdisciplinary-Oriented Workshop For Emerging Researchers (TOWERS) にて、VR空間を対象とした下肢力覚提示装置に関する研究成果を発表し、本ポスター発表の最優秀賞となるIEEE TOWERS Best Awardを受賞した。②2022年11月5、6日、日本VR学会の主催するVRコンテンツ Interverse Virtual Reality Challenge (IVRC) 2022において予選を通過し、サイエンスゴラ2022内で開催された決勝ステージにて一般人に対してデモンストレーションを実施した。
床 井 亮 祐	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	2022年11月26日、The 19th IEEE Transdisciplinary-Oriented Workshop for Emerging Researchers (TOWERS) にて、海水掘削ロボットの開発に向けた実地実験に関する研究成果を発表し、IEEE TOWERS WJ build Awardを受賞した。
成 瀬 雄 太	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	2022年9月13日、CLAWAR2022において、配管内検査ロボットの負荷低減手法に関する研究成果を発表し、「Highly Commended Paper」を受賞した。
西 野 博 貴	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	日本材料学会第71期学術講演会にて口頭発表を行い、上位5%程度に贈られる優秀講演発表賞を受賞した。マルチマテリアル技術の基盤となる接着界面科学の計算研究成果は、有名な査読付き国際学術誌に筆頭著者として採択されており、国内外から高い評価を得ている。
半 澤 凌 平	理工学研究科 博士課程後期課程 応用化学専攻	本候補者は、独自に開発した触媒の連続反応により、海洋産三環性アルカロイド天然物群の高効率的合成に成功した。
人 見 峻 広	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	2021年12月16日、第22 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 (SI2021) において、厨房換気ダクト内の清掃を目的とした遊星歯車機構を用いた油塵清掃機構に関する研究成果を発表し、優秀講演賞を受賞した。

藤井 秀行	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	工作機械のインプロセスデータを利用した切削加工デジタルツインの新しい高精度化技術を開発するとともに、加工品質の高精度推定技術を開発した。
宮川 丈瑠	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	日本機械学会関東支部主催の第28回関東支部総会・講演会にて口頭発表を行い、発表者200名近くから、上位5%以内の優秀な発表者に贈られる若手優秀講演賞を受賞した。また研究成果として、計算材料科学に関する査読付き国際学術誌に2編、筆頭著者として採択されており、国内外から高い評価を得ている。
山田 大雅	理工学研究科 博士課程後期課程 応用化学専攻	がん治療法の一つである光線力学療法(PDT)に利用できるタンパク質を合成し、細胞実験からその有効性を明らかにした。人工血液であるHemoActにプロトポルフィリンを結合するというユニークな着想により、PDTの光増感剤となるタンパク質複合体を開発した。本研究の成果は、先進医療に大きな貢献をもたらすものと期待されている。
吉田 瑠佳	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	血液型を持たない新しい人工赤血球を合成し、その構造と酸素結合能を明らかにした。赤血球表面に生体適合性の高い高分子ポリオキサソリンを結合し、血液型抗原を遮蔽する方法により、血液型を問わず誰にでも投与できるユニバーサル赤血球を開発した。本研究の成果は、人工血液の実用化に突破口を開くものであり、先進医療に大きな貢献をもたらすものと期待されている。

【体育の分野（団体）】

自動車部	全日本学生自動車運転競技選手権大会 団体優勝 Gran Turismo College League 2022 決勝大会 団体優勝
------	--

【体育の分野（個人）】

市田 龍生都	法学部 3年 (自転車競技部)	第62回全日本学生選手権トラック自転車競技大会ケイリン優勝 第77回全日本大学対抗選手権自転車競技大会ケイリン優勝、1Kmタイムトライアル優勝
井本 一輝	法学部 3年 (水泳部)	第98回日本学生選手権水泳競技大会 男子400m自由形優勝、男子1500m自由形優勝
木村 幸大	法学部 3年 (スキー部)	<ul style="list-style-type: none"> ・国体 個人優勝 ・2021～2022FISノルディックスキーワールドカップ総合32位 ・FISワールドカップ オスロ大会（ノルウェー）13位（2022.3.6） ・FISワールドカップ シューナッハ大会（ドイツ）17位（2022.3.12）

【その他（個人）】

大谷 純加	法学部 3年	当該学生が電車利用中に遭遇した心肺停止の男性の人命救助を行ったため
-------	--------	-----------------------------------

第 30 回 三重野康・高木友之助記念学術奨励賞

本賞は、三重野康元日本銀行総裁及び高木友之助元総長の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、学部学生のうち、経済、金融、政策等の諸科学の分野で、卓越した成果を収めた者に授与するものです。

秋 田 誠 弥	経済学部 4年	<p>論文タイトル： 上海株式市場と主要国株式市場間のスビルオーバー効果 —構造VARモデルによる検証—</p> <p>推薦理由： ●2022年度経済学部優秀演習論文選考委員会において、評価順位1位にて経済学部長賞を受賞 秋田氏は演習論文の中で、中国の代表的な株式指数である上海株式指数と、米国、日本、英国、豪州の株式指数の間の相互スビルオーバー効果が、中国の株式発行制度の自由化に応じてどのように変化したかを分析しています。株式発行制度の自由化は、中国の金融市場制度が、米国をはじめとする先進国の金融市場制度に近づいていく象徴的な発展プロセスと言えます。また、自由化の進展は世界の投資家に対する中国株式市場の透明性を高め、投資のモチベーションを誘発するものと解釈できます。したがって、自由化が進むことで中国の株式指数と主要先進国の株式指数の間の相関が高まり、相互のスビルオーバー効果が上昇することが予想されます。秋田氏はこうした仮説に基づき、構造VARの手法を用いて、スビルオーバー効果の変遷を検証しました。その結果、「保証人による推薦制度」が導入された2004年2月1日以降、中国から日本と豪州に対するスビルオーバー効果と、米国から中国へのスビルオーバー効果が顕著に上昇したことを明らかにしました。つまり、当該制度変更は中国と主要先進国との金融市場統合を強める重要なイベントであったことを示しています。これは当該分野の先行研究では指摘されていない、極めて重要な発見であると言えます。さらに秋田氏は、2004年以降でさえスビルオーバー効果の水準自体が最大でも1.5%程度と低いことを踏まえて、中国発の経済的ショック（2015年のチャイナショックと2020年のコロナショック）の期間における追加分析を行い、特にチャイナショック下では無視できない規模のスビルオーバー効果が観察されることを示しています。</p> <p>私は主に以下の二つの理由により、秋田氏の論文を「三重野康・高木友之助記念学術奨励賞」候補として推薦いたします。第一の推薦理由として、秋田氏の論文は一学生の演習論文の範疇を越えた、研究論文としての貢献度を持っています。具体的には、上に述べた通り、中国株式市場と主要先進国の株式市場の間のスビルオーバーが高まった時期を、丁寧な分析に基づいて特定した研究は私の知る限り存在していません。また、スビルオーバーの規模自体が小さいことを見逃さず、中国発のショック下の時期について追加分析を行ったことも、研究上の抜け目のなさとして高く評価できます。言うまでもなく、中国の様々な面における世界経済への影響を明らかにすることは、政策的にも重要な視点です。秋田氏の論文は高い政策的示唆を持つもので、さらに改訂を加えれば一定水準の学術誌に掲載されていても不自然ではない内容と質のものと考えています。第二の推薦理由として、大学院レベルの時系列分析の手法である構造VARモデルを深く学び、貢献度の高い論文を最後まで書き上げた秋田氏の熱意と努力を高く評価しています。秋田氏は4年次の春学期、演習論文の準備のために、週に一度指導教員とマンツーマンで時系列分析の教科書であるエンダース（2019）（本文参考文献をご参照ください）の輪読を行い、構造VARモデルの分析を身に付けました。就職活動を行いながら大学院レベルの教科書を読み進めることは容易ではなかったはずですが、これから社会に出る一人の人間として、日本や世界は中国とどう向き合っていくべきかという問題意識があったようで、執筆のモチベーションもはつきりとしたものでした。さらに、秋田氏はIBMの関連会社への就職が決まっていますが、今回身に着けた分析技術やデータを見る能力は、彼の今後のキャリアに活かされるものと確信しています。</p> <p>以上の通り、学術的貢献度の高さ、秋田氏の演習論文にかけた熱意、努力、モチベーションを高く評価して、「三重野康・高木友之助記念学術奨励賞」候補論文として強く推薦いたします。</p>
石 原 常 滉	商学部 4年	<p>論文タイトル： 歯科検診の義務付けは糖尿病医療費の削減につながるか —NDBオープンデータをを用いた実証分析—</p> <p>推薦理由： 本論文は、厚生労働省が公表する医療費のビッグデータであるNDBオープンデータから都道府県別の歯科医療費に関するデータを収集し、糖尿病医療費との相関関係を考察したものである。糖尿病患者は歯周病の疾患リスクが高いことから歯周病の早期発見が糖尿病の早期発見に繋がることが期待されており、「骨太の方針2022」において医療費抑制を目的に「国民皆歯科検診」が明記された。しかし分析の結果、現段階での歯科治療費と糖尿病医療費との間に統計的に有意な相関関係は見られず、歯科検診の義務化による医療費削減効果はないことが明らかにされた。本論文は、データに基づいて政策の有効性を検証したものであり、近年、政府が推進しているEBPMという合理的根拠に基づいた政策立案への取り組みに貢献するものとして、高く評価できる。加えて、2022年度商学部演習論文大会選考委員会において商学部長賞を受賞しており、顕著なものである。以上を踏まえて、三重野康・高木友之助記念学術奨励賞候補者に強く推薦する。</p>

第 28 回 船木勝馬学術奨励賞

本賞は、船木勝馬氏の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、アジア諸国・地域からの留学生を対象とし、卒業論文、修士論文又は研究論文が、優秀と認められた者に授与するものです。

李 瑩	商学研究科 博士課程前期課程 商学専攻	<p>論文タイトル： 日本食品スーパーへの盒馬鮮生（中国）のマーケティング戦略の応用可能性についての研究</p> <p>推薦理由： 李瑩氏は、「日本食品スーパーへの盒馬鮮生（中国）のマーケティング戦略の応用可能性についての研究」をテーマに修士論文を執筆している。本論文では、日中両国の環境の共通性と差異性を明らかにした上で、盒馬鮮生のマーケティング戦略の、日本の食品スーパーへの応用可能性を考察している。盒馬鮮生の戦略的特徴を明確にしたうえで、環境条件の異同に対応させて、戦略移転の促進要因と阻害要因を解明し、さらにその阻害要因をいかに克服するかについても分析している点で詳細な考察が行われており評価できる。以上のことから、李氏を船木勝馬学術奨励賞候補者として推薦する次第である。</p>
-----	---------------------------	--

第 28 回 水野富久司スポーツ奨励賞

本賞は、水野富久司氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として陸上競技部選手の育成に資することを目的として、陸上競技部に所属する学生のうち、長距離選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

若 林 陽 大	法学部 4年 (陸上競技部)	第99回東京箱根間往復大学駅伝競走大会 6区 区間2位 (58分39秒) 4年連続、箱根駅伝6区で出場し、いずれも60分以内の記録で走りきった。 4年連続60分以内で走った選手は過去に3名しかおらず、史上4人目となる素晴らしい記録である。 また、今年は主将の重責も担った。 今後も日本の長距離種目での活躍が期待される。
---------	-------------------	---

第 26 回 瀧野秀雄学術奨励賞

本賞は、瀧野秀雄氏の篤志を尊重し、少壮気鋭の研究者の研究活動を奨励することを目的として、本学准教授、助教若しくは専任講師又は大学院に在籍する学生であつて、産業や技術開発の国際化にともなう知的財産権に関する研究論文が優秀と認められた者に授与するものです。

梶 原 美 紀	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	論文タイトル： レーザー誘起粒子衝突試験を用いた金属材料へのナノ双晶の導入 推薦理由： 梶原氏は人格・学業ともに優秀な学生であり、新規性の高い「レーザー誘起粒子衝突による材料開発」に関する修士論文研究を勤勉に取り組んでおり、国内学会へ登壇者として2件、国際学術誌の共著者として1件の論文を執筆し、これに関連して「粒子移動速度計測装置及び粒子移動速度計測方法（特願2022-171734号）」を出願している。論文「Material Parameters in Constitutive Equation for Plastic Deformation at a High Strain Rate Estimated by High-Velocity Microparticle Collisions」はアメリカ金属学会の有名学術誌「Journal of Materials Engineering and Performance」に採択され、また関連研究の「レーザー誘起粒子衝突試験を用いた金属材料へのナノ双晶の導入」は公益社団法人日本材料学会関東支部2022学生研究交流会にて優秀講演賞を受賞し高い評価を得ている。マイクロ・ナノ粒子の超高速飛翔とその速度計測、そして材料開発への応用研究は新規性が高く、かつ社会実装も期待できることから梶原氏を瀧野秀雄学術奨励賞に推薦する。
金 子 完 治	理工学研究科 博士課程後期課程 精密工学専攻	論文タイトル： Detection of nanoparticles in a minute sample using the vibration induced flow 推薦理由： 本論文が研究の質と新規性において優れているため。本論文は、「The 17th International Conference on Nano/Micro Engineered and Molecular Systems (NEMS)」国際学会で「CM Ho best paper in Micro/Nanofluidics Award」を受賞した。得られた研究成果は特許出願されていることに加えて（特願2022-114134）、JSTが主催する「イノベーション・ジャパン2022～大学見本市Online」に採択され、産官学の参会者に対して広く展示公開された。現在、研究成果をまとめ上げ、国際学術誌への査読中である。
田 崎 元	理工学研究科 博士課程後期課程 電気・情報系専攻	論文タイトル： 埋め込み空間におけるデータ多様体構造に基づく敵対的サンプルの発生メカニズムに関する考察 推薦理由： 田崎君の上記論文は、現在、著作権・知財・特許の侵害検知・分析・鑑定に広く使われるAI人工知能への重大な脅威とされている、深層学習の真贋判定に対する敵対攻撃の解明と対策に大きく貢献したため、一般社団法人 電子情報通信学会 パターン認識・メディア理解研究会の「2021年度PRMU研究奨励賞」を受賞し、高い評価を得ている。
仲 光 純	理工学研究科 博士課程前期課程 経営システム工学専攻	論文タイトル： Analyzing the Structure of U.S. Patents Using Patent Families (パテントファミリーを用いた米国特許の構造解析) 推薦理由： 論文「Analyzing the Structure of U.S. Patents Using Patent Families」は、特許の請求項と明細以外の構造タグが付与されていない米国特許に対し、機械翻訳とパテントファミリーを利用することで、機械学習により米国特許の構造解析器を構築した点が優れている。この論文は、International Institute of Applied Informaticsが開催した国際会議第12回IIAI International Congress on Advanced Applied Informaticsに採択されている。さらに、査読の評価が優れていることから論文誌IEE: Information Engineering Expressへの投稿を推薦され、現在投稿中である。

第 26 回 茨木龍雄学術奨励賞

本賞は、茨木龍雄氏の篤志を尊重し、都市環境学の分野における有為な人材の育成に資することを目的として、理工学部都市環境学科及び大学院理学研究科都市環境学専攻に在籍をする学生であって、都市環境学に関する研究及び人物がともに優秀と認められた者に授与するものです。

早澤華怜	理工学研究科 博士課程前期課程 都市人間環境学専攻	論文タイトル： 狭窄部を有する河川において狭窄形状の違いが水位縦断形に与える影響 推薦理由： 早澤華怜さんは学業成績優秀のみならず同級生や後輩、先輩からの信頼も厚い勤勉な学生です。国家公務員総合職試験には学部4年、修士1年、2年と3回合格しており、4月からは国土交通省に入省します。また、学生主体で行われる国家公務員試験対策講座の学生代表を務め、リーダーシップを発揮し、理工学部全体の国家公務員総合職試験の合格者数向上に大きな貢献をしています。 修士論文においては、狭窄部で発生する大規模水害の被害軽減を目的に、狭窄形状と水位縦断形の関係を定量的に評価し、狭窄部を持つ河川に対する新たな治水対策の一助となる有益な知見を示し、修士論文発表会において最も優れた発表として評価されました。また、この研究成果の一部を発表した土木学会地球環境委員会主催の土木学会第30回地球環境シンポジウムでは優秀ポスター賞を受賞し、学術的に高い評価を得ました。 以上のように、周りの学生の模範となるような同君の探求心、行動力や学問を追求する姿勢は見事であることから、茨木龍雄学術奨励賞の候補者として推薦します。
三寺伊織	理工学部 4年	論文タイトル： 錯視床デザインが発達障害者の生体反応に及ぼす影響 推薦理由： 三寺伊織氏は、成績優秀で同級生からの信頼も厚い勤勉な学生です。卒業論文では、錯視床デザインが発達障害者の生体反応の及ぼす影響について、実験およびその結果の解析を行いました。身体の障害のみならず、心の障害についてもバリアフリーの対象として捉え、かつそうした障害をもつ方々とともにデザインを検討する「インクルーシブデザイン」は、都市環境分野においても重要なテーマになっています。しかしながら、心に障害を持つ方は自らの意思を伝えることに困難を抱える場合も少なくありません。三寺さんは生体反応に注目しました。錯視床デザインを対象に、健常者と発達障害者を比較し、主観評価、注視率そして心拍数、瞳孔径およびそれらの関係を分析し、これらについて健常者と有意な差があることを定量的に示し、生体反応を活用したインクルーシブデザインの可能性を明らかにしました。 高い探求心をもち外部の研究者とも積極的に意見交換する姿勢は研究室の学生たちにとってもよい模範になりました。以上のことより、茨木龍雄学術奨励賞の候補者として推薦します。

第 26 回 久保田昭夫・久保田紀昭女子スポーツ奨励賞

本賞は、久保田昭夫氏及び久保田紀昭氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として女子選手の育成に資することを目的として、学友会体育連盟の部会に所属する女子学生であって、選手として優秀な成績を取った者に授与するものです。

池本風沙	法学部 2年 (水泳部)	第98回日本学生選手権水泳競技大会 女子200m自由形優勝 ジャパンオープン2022 (50m) 女子100m自由形優勝 第98回日本学生選手権水泳競技大会において、女子200m自由形で優勝した。 また、ジャパンオープン2022 (50m) では、女子100m自由形で優勝した。 今後も日本の競泳界での活躍が大きく期待される。
------	-----------------	---

第 69 回 学員体育会賞

本賞は、体育の業績において優秀な成績を挙げた本学の学生、団体に対し授与するものです。

【優秀団体賞】

ハンドボール部	・高松宮記念杯第65回全日本学生ハンドボール選手権大会 優勝 (2年連続5回目) ・2022関東学生ハンドボール連盟秋季リーグ戦 優勝
---------	--

【優秀団体部門賞】

自動車部	2022年度全日本学生自動車運転競技選手権大会 男子団体の部 優勝 (3回目)
フェンシング部 (男子)	2022年度全日本学生フェンシング選手権大会 男子サーブル団体の部 優勝
フェンシング部 (女子)	2022年度全日本学生フェンシング選手権大会 女子サーブル団体の部 優勝
ボート部 (女子)	第49回全日本大学選手権大会 女子クォドルブル優勝 溝口 心華 (文4), 神 杏奈 (商3), 橋村 心 (文3), 上野 美歩 (法2)

【努力団体賞】

バレーボール部	2022年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦 優勝 (6年ぶり)
準硬式野球部	・令和4年度東都大学準硬式野球春季リーグ戦 優勝 (5季連続67回目) ・第64回関東地区大学準硬式野球選手権大会 優勝 (2連覇) ・令和4年度東都大学準硬式野球秋季リーグ戦 優勝 (6季連続68回目)
弓道部	第34回全国大学弓道選抜大会 女子の部 優勝 (初優勝)
女子卓球部	2022年度春季関東学生卓球リーグ戦女子1部 優勝 (5年ぶり)
軟式野球部	・令和4年度 東都学生軟式野球 秋季リーグ戦 優勝 (2連覇9回目) ・令和4年度 第43回東日本学生軟式野球選抜大会 優勝 (4回目)

【リレー賞】

女子陸上競技部 (4名)	第101回関東学生陸上競技対校選手権大会 4×400m (マイルリレー) 優勝 (2連覇) 高島 菜都美 (文4), 松岡 萌絵 (経2), 大島 愛梨 (文4), 飯田 景子 (法2)
自転車競技部 (3名)	第77回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子チームスプリント優勝 福田 健太 (商4), 市田 龍生都 (法3), 大橋 真慧 (経3)

【優秀選手賞】

金子 魅 玖 人	商学部 3年 (陸上競技部)	第106回日本陸上競技選手権大会 800m 優勝
吉 居 大 和	法学部 3年 (陸上競技部)	・秩父宮賜杯第54回全日本大学駅伝対校選手権大会 6区 区間新記録 ・第99回東京箱根間往復大学駅伝競走大会 2区区間賞 ・第34回出雲全日本大学選抜駅伝競走 1区区間賞
池 本 風 沙	法学部 2年 (水泳部)	・第98回日本学生選手権水泳競技大会女子200m自由形優勝 ・ジャパンオープン2022 女子100m自由形優勝
出 頭 海	法学部 3年 (レスリング部)	文部科学大臣杯UNIVAS CUP令和4年度全日本学生レスリング選手権大会 フリースタイル125kg級優勝 (2連覇)
ウエノリュウイチ	商学部 3年 (ボクシング部)	2022全日本ボクシング選手権男子クルーザー級優勝
上 野 優 佳	法学部 3年 (フェンシング部)	・2022年度全日本学生フェンシング選手権大会 女子フルーレ 優勝 ・第74回関東学生フェンシング選手権大会女子フルーレ 優勝
中 澤 拓 哉	経済学部 1年 (スキー部)	・FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズユニバーシアード冬季競技大会2023 ・ノルディック複合 男子マスタートノーマルヒル10km 4位 スプリント2位
市 田 龍 生 都	法学部 3年 (自転車競技部)	・第77回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子1kmタイムトライアル 優勝 ・第77回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子ケイリン 優勝 ・第62回全日本学生選手権トラック自転車競技大会男子ケイリン 優勝

【体育賞】

中 野 翔 太	法学部 3年 (陸上競技部)	第99回東京箱根間往復大学駅伝競走大会 3区区間賞
井 本 一 輝	法学部 3年 (水泳部)	・第98回日本学生選手権水泳競技大会男子400m自由形 優勝 ・第98回日本学生選手権水泳競技大会男子1500m自由形 優勝
廣 瀬 翔 太	法学部 4年 (ヨット部)	2022 SNIPE CLASS WORLD CHAMPIONSHIP (スナイプ級世界選手権) 出場
熊 倉 優	理工学部 3年 (ヨット部)	2022 SNIPE CLASS WORLD CHAMPIONSHIP (スナイプ級世界選手権) 出場
渡 邊 知 成	商学部 3年 (自動車部)	・2022年度全日本学生自動車運転競技選手権大会 男子小型貨物個人の部 (Aコース) 優勝 ・2022年度全日本総合杯個人 男子 総合優勝 ・2022年度全関東学生自動車運転競技選手権大会男子小型貨物個人の部 (Bコース) 優勝
尾 方 莉 欧	国際経営学部 3年 (自動車部)	・2022年度全日本学生自動車運転競技選手権大会 男子小型貨物個人の部 (Bコース) 優勝 ・2022年度全関東個人総合杯 男子総合優勝
馬 場 俊 輔	法学部 2年 (フェンシング部)	2022年度全日本学生フェンシング選手権大会 男子フルーレ 優勝
薄 井 理 央	商学部 3年 (スキー部)	第96回全日本学生スキー選手権大会 男子スーパーG優勝
吉 田 陸 矢	経済学部 1年 (射撃部)	・2022年度全日本学生スポーツ射撃選手権大会10mエアライフル60発競技 優勝 (大会新) ・第24回日本学生選抜スポーツ射撃競技大会10mエアライフル60発競技 優勝
川 村 優 太	文学部 4年 (少林寺拳法部)	第56回少林寺拳法全日本学生大会男子重量級1位

【努力賞】

千 守 倫 央	商学部 4年 (陸上競技部)	第34回出雲全日本大学選抜駅伝競走大会 2区 区間賞・区間新記録
山 本 聖 蓮	法学部 2年 (水泳部)	ジャパンオープン2022男子50m平泳ぎ 優勝
西 田 駿 人	経済学部 3年 (ソフトテニス部)	第77回東日本学生ソフトテニス選手権大会 ダブルス優勝
幡 谷 康 平	法学部 2年 (ソフトテニス部)	第77回東日本学生ソフトテニス選手権大会 ダブルス 優勝
久 保 寺 歩 夢	文学部 4年 (ハンドボール部)	2022関東学生ハンドボール連盟秋季リーグ戦 最優秀選手賞

佐藤篤裕	法学部 4年 (バレーボール部)	2022年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦 最優秀選手賞
桐井航汰	法学部 4年 (ヨット部)	関東学生ヨット個人選手権大会スナイプ級 優勝
笠井秀哉	法学部 2年 (ヨット部)	関東学生ヨット個人選手権大会スナイプ級 優勝
小野寺翔平	法学部 4年 (卓球部)	・2022年度春季関東学生卓球リーグ戦 優秀選手賞・敢闘賞・最優秀ペア一賞 ・2022年度秋季関東学生卓球リーグ戦 優秀選手賞・敢闘賞・特別賞
浅津碧利	文学部 4年 (卓球部)	・2022年度春季関東学生卓球リーグ戦 最優秀ペア一賞 ・2022年度秋季関東学生卓球リーグ戦 特別賞
中森至	経済学部 3年 (準硬式野球部)	令和4年度東都大学準硬式野球春季リーグ戦 最優秀選手賞
幸喜健太郎	商学部 4年 (準硬式野球部)	令和4年度東都大学準硬式野球秋季リーグ戦 最優秀選手賞
飯田景子	法学部 2年 (女子陸上競技部)	第101回関東学生陸上競技対校選手権大会 女子400m優勝
松岡萌絵	経済学部 2年 女子陸上競技部	第101回関東学生陸上競技対校選手権大会 女子400mハードル優勝
梶木菜々香	法学部 4年 (女子陸上競技部)	第101回関東学生陸上競技対校選手権大会女子7種競技 優勝
諸岡温子	経済学部 4年 (剣道部)	第54回関東女子学生剣道選手権大会 優勝
北村広輝	商学部 4年 (重量挙げ部)	令和4年度第68回全日本大学対抗選手権大会男子55kg級 優勝
枝廣愛	商学部 1年 (女子卓球部)	・2022年度春季関東学生卓球リーグ戦女子1部優勝 殊勲賞・最優秀新人賞 ・2022年関東学生卓球選手権大会ダブルス優勝・シングルス優勝 単独2冠王
工藤夢	文学部 3年 (女子卓球部)	2022年関東学生卓球選手権大会ダブルス優勝
山下乃亜	文学部 3年 (軟式野球部)	令和4年度 東都学生軟式野球 秋季リーグ戦 最優秀選手賞
長野壮一郎	経済学部 3年 (軟式野球部)	令和4年度 第43回東日本学生軟式野球選抜大会 最優秀選手賞

【学長賞】

金子魅玖人	商学部 3年 (陸上競技部)
吉居大和	法学部 3年 (陸上競技部)
池本風沙	法学部 2年 (水泳部)
出頭海	法学部 3年 レスリング部
ウエノリュウイチ	商学部 3年 (ボクシング部)
上野優佳	法学部 3年 (フェンシング部)

中澤拓哉	経済学部 1年 (スキー部)
市田龍生都	法学部 3年 (自転車競技部)

【優秀監督賞】

ハンドボール部	實方 智
---------	------

【永年監督賞】

弓道部	渡辺泰和
ラクロス部	高橋大輔

第 40 回 学員会会長賞

本賞は、在学生の士気の高揚を図り、本学の発展に寄与することを目的として、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて特に優秀な成果を収めた者に授与するものです。

【学術・文化・社会の分野】

濱野 伶	法学部 4年	濱野さんは「世の中を変えたいのなら、まずは目の前のホームレスからだろう」と当事者から投げかけられた言葉に突き動かされ、ホームレスの方々に声をかけることからスタートし、今や約170人程度の川崎駅周辺のホームレスの方々と信頼関係を築き上げている。地域住民、NPO、行政の方々とも協力し、SNSを駆使しながら独自に活動を展開しており、社会を変えていこうとする熱意はもちろんのこと、多様な方々とのコミュニケーション力、行動力、アイデア力、多くの力を必要とされるこの活動を立ち上げ、継続していきことから、本賞の受賞に相応しい候補者として推薦したい。
阿部 耀 介	商学部 3年	阿部耀介氏は、本年度、研究者や法曹界の実務家などが所属する国際取引法学会が主催する『エッセイ・コンテスト』に応募し、上記のとおり最も権威のある最優秀賞（学部学生部）を受賞している。応募論文では、外国法の研究に向けた積極的な分析を行い、今後のわが国の消費税率制度への示唆を得ようとしたものであり、意欲的な研究姿勢を認めることができる。また、同氏は税理士を目指し、本年度難関の税理士国家試験を受験し、簿記論、財務諸表論の2科目の同時合格を果たすなど確かな実力を有しているといえる。さらに、同氏は、3年次生であるが阿部雪子ゼミ（租税法ゼミ）において、ゼミ長として積極的にゼミ運営に携わりゼミ生を支えるなどゼミの要として活動している。
村上 達 哉	理工学部 4年	村上達哉さんは理工学部電気電子情報通信工学科2022年度4年生の中で最優秀の成績を収め、修得単位数も極めて多く、知的好奇心と能力双方の高さを示している。また、卒業研究では自ら関連論文について調べ研究課題の理解を深めるとともに、デバイス製作や評価について勤勉に実験を行い、困難が生じた際には指導教員とのディスカッションを通じて解決を図ろうとするなど、非常に意欲が高く他の学生の模範となっている。大学院進学後も研究を継続・発展し、その成果を国内外に広く発信してくれるものと確信される。以上のように、村上達哉さんは中央大学学員会会長賞を受けるにふさわしい前途有望な学生であり、ここに推薦する。
大 桃 洗 紀	総合政策学部 4年	本研究では、Spotifyチャートにランクインする楽曲の特徴や、それに影響を及ぼす環境要因等について、詳細な現状分析とそれに対する明確な問題設定の下でデザインされ、先行研究を十分ふまえた上で仮説の構築がなされている。また、APIを利用して行った独自のデータセット構築も合理的であり、結論は単なる学生論文の域を超え、学術的な研究として十分評価でき、情報通信学会次世代ネット政策研究会において「最優秀発表賞」を受賞している。これは本学の名声を大いに高める学術的な活動成果であると評価でき、研究教育機関として奨励すべきものである。こうした理由から、本賞候補者として強く推薦する。
中村 咲 里 佳	総合政策学部 3年	中村さんは、これまで全国レベルのインドネシア語スピーチコンテストで複数回入賞を果たしている。＜2022年度総合最優秀賞（神田外語大学主催）、2022年度優秀賞（在大阪インドネシア共和国総領事館主催）、2021年度優秀賞（神田外国語大学主催）＞これまで真摯に異文化理解や人類の共生について考えたことがこれらの成績につながった。また、インドネシア共和国主催の芸術文化プログラムの日本代表に選ばれるなど、その積極的な学習態度は称賛に値する。
萱原偉さん、佐藤慶華さん、島脇七海さん、杉本聖梨さんのグループ	法学部	「基礎演習2（麻尾陽子ゼミ）」では、授業の一環としてコンテストへの参加を推奨しており、ゼミ生が積極的にチャレンジしている。コンテストへの参加は必須ではない中でも、4名の学生たちは参加を決意し、協力して準備を進め、アイデアを出し合って提案をまとめ上げた。当該コンテストの審査員からは「カーテンの切れ端からブックカバーを製作し、その収益の一部を寄付するという新しい発想は、SDG sの観点からも非常に社会貢献度の高い取り組みである。」と評価をいただいている。以上を踏まえて、本賞の受賞に相応しい候補者チームとして推薦したい。
中央大学経済学部 江川章ゼミナール/ジャポニカ米坂田 伶央（他 5 名）	経済学部	本研究は、農業担い手の高齢化と減少が著しい中山間地域における新規就農のあり方を検討するものである。中山間地域には、就農希望者を受け入れて研修を行う農業法人や大規模経営の数が少ないため、新規就農者の確保・育成が困難な状況にある。そこで、2020年度から始まった特定地域づくり事業協同組合の仕組み（過疎地域での人材育成を行う事業協同組合に対して国・自治体が財政支援を行うもの）を応用した就農支援の調査分析にいち早く取り組み、担い手不足に悩む中山間地域に対して有用な情報を提供したという点で、学術的・実践的な面で貢献があることから、本賞に推薦する。
中央大学宮本悟ゼミ チーム D 西川 真昼（他3名）	経済学部	「学びの街 八王子市へ！」をテーマにした本研究は、第14回大学コンソーシアム八王子学生発表会にて優秀賞を授与された。八王子市長が審査員に加わるメイン会場での発表では、小学生の約6割が通塾できない要因として、先行研究・官庁統計の精緻な分析により、①場所的要因、②時間的要因、③経済的要因を指摘した。その上で、石森市長に対して、市内12カ所の児童館で教職志望の大学生による集団授業を展開する小学生向け無料塾の設置を直接訴えかけ、地域特性を踏まえた具体的な提言が高く評価された。
原 田 直 輝（他 2 名）	商学部	候補者らが最優秀賞を受賞した一般社団法人神奈川県情報サービス産業協会が主催する学生ITコンテストは、今年が第7回目で全77作品がエントリーを行った神奈川県を中心に首都圏の大学や専門学校が応募する有名なビジネスコンテストである。競合チームの多くが、情報を専門とする大学、専門学校の中、文科系チームとしてビジネスアイデアで勝負した。ありそうでなかったニッチなアイデアで、緻密なマネタイズや説得力の高いプレゼンテーションにより、最終選考で大変高い評価を受けた作品を作り上げたチームであるため、本賞に推薦したい。
FLPジャーナリズムプログラム松野良一ゼミ 高見 遥菜（他18名）	総合政策学部	松野ゼミが制作したドキュメンタリー2作品が、NHK、民放連など主催の第42回「地方の時代」映画祭2022で高く評価された。「『戦車は動けない』—北ベトナムの日本人女性歌手」は、戦時下の北ベトナムへ赴き反戦の歌を歌った日本人女性がいたという秘話を描き、優秀賞を受賞した。『「智恵ちゃん…お父さんは泣きました」—あるBC級戦犯の手紙』は、BC級戦犯として処刑された軍医の父をもつ長女・智恵子さんの証言をもとに、上官の命令に逆らえなかったBC級戦犯の悲劇と遺族の苦勞を描いた作品。こちらの作品は奨励賞を受賞した。

【スポーツの分野（個人）】

金子 魅 玖 人	商学部 3年（陸上競技部）	第106回日本陸上競技選手権大会 800m 優勝
吉 居 大 和	法学部 3年（陸上競技部）	・秩父宮賜杯第54回全日本大学駅伝対校選手権大会 6区区间新記録 ・第99回東京箱根間往復大学駅伝競走大会 2区区间賞 ・第34回出雲全日本大学選抜駅伝競走 1区区间賞
池 本 凧 沙	法学部 2年（水泳部）	・第98回日本学生選手権水泳競技大会女子200m自由形優勝 ・ジャパンオープン2022 女子100m自由形優勝

出 頭 海	法学部 3年 (レスリング部)	文部科学大臣杯UNIVAS CUP令和4年度全日本学生レスリング選手権大会 フリースタイル125kg級優勝 (2連覇)
ウエノリュウイチ	商学部 3年 (ボクシング部)	2022全日本ボクシング選手権男子クルーザー級優勝
上 野 優 佳	法学部 3年 (フェンシング部)	・2022年度全日本学生フェンシング選手権大会 女子フルーレ 優勝 ・第74回関東学生フェンシング選手権大会女子フルーレ 優勝
中 澤 拓 哉	経済学部 1年 (スキー部)	・FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズユニバーシアード冬季競技大会2023 ・ノルディック複合 男子マスタートノーマルヒル10km 4位 スプリント2位
市 田 龍 生 都	法学部 3年 (自転車競技部)	・第77回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子1kmタイムトライアル優勝 ・第77回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子ケイリン優勝 ・第62回全日本学生選手権トラック自転車競技大会男子ケイリン優勝

【スポーツの分野 (団体)】

ハ ン ド ボ ー ル 部	・高松宮記念杯第65回全日本学生ハンドボール選手権大会 優勝 (2年連続5回目) ・2022関東学生ハンドボール連盟秋季リーグ戦 優勝
---------------	--

【スポーツの分野 (OB・OG)】

小 川 智 (本田技研工業株式会社)	陸上競技部OB	第66回全日本実業団対抗駅伝競走大会優勝監督
上 野 裕 一 郎 (立教大学)	陸上競技部OB	天皇盃 第28回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会 優勝 (長野県) アンカー 立教大学駅伝監督 55年ぶり箱根駅伝出場
牧 秀 悟 (横浜DeNAベイスターズ)	硬式野球部OB	2023ワールドベースボールクラシック 出場
塩 浦 慎 理 (株式会社ナガセイトマン東進)	水泳部OB	・第98回日本選手権水泳競技大会男子50m自由形優勝 ・ジャパンオープン2022男子50m自由形優勝
大 本 里 佳 (全日本空輸株式会社)	水泳部OG	第19回世界水泳選手権競技大会200m個人メドレー4位
牧 野 草 子 (自衛隊体育学校)	ボクシング部OB	全日本ボクシング選手権フライ級優勝
シュミット・ダニエル (シント＝トロイデンVV)	サッカー部OB	2022 F I F A ワールドカップ日本代表
江 村 美 咲 (立飛ホールディングス)	フェンシング部OG	・世界フェンシング選手権優勝 ・第75回全日本フェンシング選手権大会 女子サーブル優勝
神 崎 信 彦 (有)ライフアンドファイナンス)	スキー部OB	FISU冬季ワールドユニバーシティゲームズユニバーシアード冬季競技大会2023 アルペンコーチ
五 島 莉 乃 (資生堂)	女子陸上競技部OG	第18回世界陸上選手権大会 10000m
ヘンブヒル恵 (アトレ)	女子陸上競技部OG	第106回日本陸上競技選手権大会 七種競技 優勝
今 村 駿 介 (福岡チームプリジストンサイクリング)	自転車競技部OB	Tissot UCI Track World (2022年自転車トラック世界選手権)
西 本 拳 太 (ジェイテクト)	バドミントン部OB	・2022年度ダイハツ・ヨネックスオープン 優勝 ・2022年世界バドミントン選手権大会 ベスト16
小 松 勇 斗 (GLIZZLIES)	ラクロス部OB	第11回ワールドゲームズ・ラクロス競技3位

第 7 回 学員会会長奨励賞

本賞は、在学生の士気の高揚を図り、本学の発展に寄与することを目的として、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて優秀な成果を収めた者に授与する学員会会長賞に準ずる者に授与するものです。

【学術・文化・社会の分野】

佐々木 望 恵	法学部 2年	「コロナ禍に生きる私、コロナ後における世界の展望と私の未来」を課題テーマとして、174編の作品が提出された中で、佐々木さんの論文が見事に最優秀賞を受賞した。 コロナ禍で思い描いていた学生生活が送れない中でも不安を抱えている家族に前を向いている姿を見せようと努力されている。さらに、やる気応援奨励金を活用したオンライン留学への取り組みや積極的に授業へ関わることで新たな志を見出すに至った過程は、多くの学生に示唆と希望を与えるものと思考する。以上を踏まえ、本賞の受賞に相応しい候補者として推薦したい。
阿佐美 有 沙	法学部 4年	阿佐美さんは、4年間を通して様々な社会課題に関心を持ち、自分にできることを考えながら行動を続けている。コロナ禍で活動が制限されている中でも、工夫しながら地域の方々との接点を保ち続け、地域の方々からの信頼も厚い。こうした活動は、倉敷市社会福祉協議会、さわやか福祉財団のパンフレットにも紹介されている。 社会的に弱い立場の方々へ寄り添い、学生だからこそできることを考え、周囲を巻き込みながら活動してきたことを踏まえて、本賞の受賞に相応しい候補者として推薦したい。
星野 日 和	法学部 3年	星野さんは、Border Freeのコアメンバーとして、学習支援を行う場所の確保、多摩市の後援申請、広報のための学校への交渉など、活動を通じて多くのスキルを身に付けてきた。また、現場で感じる地域や社会の課題を正課の授業として還元できるサイクルを自らまわすことができている。 加えて、管弦楽部でも、多くの部員の意見を尊重するために備わった調整力や、部長としての責任のある振る舞いを意識して行動できている。これらを踏まえて、本賞の受賞に相応しい候補者として推薦したい。
石 川 凌	理工学部 4年	数学を学ぶ態度を早くから自分のものとし、数学の学問としての深さを理解しつつある。また数学を学んでいく中で見つけた疑問について、自ら問い直し、文献検索等によりそれを解明する方策を探っていくことができるようになっていく。さらに、友人達とともに議論を交わしながらより数学的な理解を深めており、他の学生に対してもアドバイスするなど周りに良い影響を与えている。以上により、学員会会長奨励賞にふさわしいと考え推薦する。
包 安	理工学部 4年	当該学生は、理工学部・物理学科において学年トップクラスの優秀な成績を修めており、人物や協調性も優れている。卒業研究においては超伝導の研究に高い関心を示し、試行錯誤を要するオリジナル実験装置の開発にも粘り強く取り組んでいる。緻密な計画をたて、議論、提案、打ち合わせなども積極的に行っており、洞察力や課題解決力も優れている。今後の研究活動において活躍が大いに期待され、本奨励賞に値する学生として推薦する。
平 井 秀	理工学部 4年	平井君は入学以降、常に向学心をもち優秀な成績を収め、中央大学理工学部給付奨励金を受賞している。また、本年度の国家公務員総合職試験にも合格している。合格後における翌年向けの公務員講座では、スタッフを務め、自らが持つ知識を後輩に積極的に還元している。学んだ内容を他の学生に広く還元する姿は、同級生からも評価が高い。奨励金選考の面接において「学科内で 奨励金を与えるべき学生は誰か」という相互評価の問いかけに対して、多くの票を集めたことからこれは何える。さらに都市環境学科の同窓会の学生スタッフも担っており、在学生と卒業生のパイプ役を熱心に務めている。以上のことから、平井君を本賞の趣旨に相応しい人物として推薦する。
雨 宮 達 也	理工学部 3年	中央大学公認部会である精密機械工学研究部は、学生が主体的に実際のものづくりに挑戦し、授業で学習した内容に加え、多様な技術習得や製作を実践している。その活動の一環として、宇宙開発のモデルのひとつである人工衛星型ロボットCANSATを設計および製作して、能代宇宙イベントに出場し、オートデスク株式会社が高く評価され最優秀賞を受賞した。また、川崎ロボット競技会では、アマダ賞、オリジナルマインド賞、日の出製作所賞、大西家具店賞を受賞した。中央大学の名声向上に大きく貢献したので、中央大学学員会会長奨励賞に強く推薦する。
高 島 航 平	理工学部 4年	高島航平さんは理工学部電気電子情報通信工学科2022年度4年生の中で最優秀に次ぐ成績を収め、学習意欲と能力いずれも高いことを示している。また、卒業研究ではロボットを高精度に制御するための装置の高性能化を目指し、指導教員および研究室メンバーと積極的にコミュニケーションを図りながら粘り強く研究に打ち込んでいる。その真摯な姿勢は他の学生の模範となるものである。大学院進学後も研究を継続・発展し、その成果を国内外に広く発信してくれるものと確信される。以上のように、高島航平さんは中央大学学員会会長奨励賞を受けるにふさわしい前途有望な学生であり、ここに推薦する。
松 尾 絵 理	理工学部 4年	松尾絵理さんは応用化学科入学時より現在に至るまで、4年間にわたり常にトップクラスの成績をあげ、通算GPAも 3.6を超える優秀な学生です。4年次には熱心に卒業研究に取り組み、ケイ素架橋をもつ二核カドミウム化合物の合成とその可視光応答特性について優れた研究成果を得ました。この成果は、学部生ながら2023年3月に千葉で開催される日本化学会第103春季年会において「可視光応答を示すカドミウム二核錯体の開発およびその光物性評価」の題で発表の予定です。人物、学業成績ともに申し分ない模範的な学生であり、中央大学学員会会長奨励賞にふさわしいと確信しますので、推薦致します。
木 村 航 大	理工学部 4年	木村航大君は本学理工学部経営システム工学科に入学以来、大変熱心に勉学に励み、4年前期までの通算GPAが学年トップを維持しており勉強への積極的な姿勢と結果が確認できます。現在はデータ駆動型のマーケティングの研究に従事しており、大変熱心に卒業研究に励んでいます。 現在の研究成果を中心に12月2日に開催された日本オペレーションズ・リサーチ学会データドリブンマーケティング研究部会で研究発表を行い、さらに本学大学院進学を予定しており、修士1年前期中に国際会議での研究報告を予定しております。 このように、木村航大君の学問への真摯な姿勢は、学生の範となるものでありことから、中央大学学員会会長奨励賞に推薦いたします。
内 藤 千 陽	理工学部 4年	3年次の通算GPAは3.40で、研究室配属後も卒業研究に意欲的に取り組んでおり、推薦の前提となるべき学業において本学学生として十分な活動をしている。在学中は、パンデミックの影響で授業だけでなく学外活動も大きく制限されていたにもかかわらず、国際貢献に意欲的に参加し、所属団体の国際部長も努めながら具体的な成果に結実させたことは、本学学生としての本分を十分に発揮しており、顕彰に値すると考える。

杉崎 慶太	理工学部 4年	杉崎氏は、学部4年の早期に研究を国際学会発表レベルまで進展させ、機能的近赤外分光分析法(fNIRS)の国際学会であるfNIRS 2022 Bostonにてポスター発表を実現した。参加者300名超の発表者の中で、学部生の筆頭著者発表は杉崎氏のみであり、快挙と言える。学部生への国際学会発表支援は本学にはなく、残念ながら現地発表は断念し、オンラインでの発表に切り替えざるを得なかったが、研究内容に関しては、高評価が得られている。学部時から国際学会の発表を目指して研究を行い、それを実現したという実績は本学のグローバル化に多大な貢献を残すものである。このような意欲的な試みは積極的に評価すべきである。
鈴木 美帆	総合政策学部 4年	本研究では、中央銀行デジタル通貨(CBDC)普及の経済効果について、交通系ICカードの相互乗入れの事例を参考に、定量的な分析を行っている。先行研究のサーベイも丁寧に実施されており、仮説の構築、変数選択、分析結果から得られる政策的示唆への展開も論理的に行われている。この成果については学術的貢献も認められており、情報通信学会次世代ネット政策研究会では、ポスター発表賞を受賞している。この結果は、本学の教育水準の高さを対外的に示し、本学の名声を高めたと評価できるため、本賞候補者として推薦に値すると判断した。
吉田 理湖	総合政策学部 4年	吉田さんは、2022年のスピーチコンテストにおける最優秀賞受賞のみならず、2021年には全国規模で開催されたSony Startup Pitch Contest (Sony主催)の「3Rによる次世代ビジネス創出」部門でも最優秀賞を受賞した。中央大学総合政策学部での学びを最大限に生かしていることが、推薦の理由である。また、誠実で温かな性格で模範ともいえる学生である。
赤松 義人	総合政策学部 2年	マレー・インドネシア語の学習に真面目に取り組み、全国レベルのスピーチコンテストの朗読部門において第3位となったこと。
関根 翼	国際情報学部 2年	当該学生は、本学部の理念を正確に理解し、将来はシステムエンジニアになり情報処理サービス業界で働きたいと考え、正課内外で精力的に学修・研究を進めてきた。このたび、当該学生は今年度の「応用情報技術者試験」に合格した。本試験の合格者は「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」(実施団体:情報処理推進機構WEBサイト抜粋)と位置付けられており、本学部卒業後の活躍も大いに期待される。人物も申し分なく、国際情報学部を代表する学生として、本奨励賞に推薦する。
高橋 利武	国際情報学部 3年	当該学生は、今年度の「応用情報技術者試験」及び「情報処理安全確保支援士試験」に合格した。「応用情報技術者試験」の合格者は「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」(実施団体:情報処理推進機構WEBサイト抜粋)として、「情報処理安全確保支援士試験」の合格者は「サイバーセキュリティに関する専門的な知識・技能を活用して企業や組織における安全な情報システムの企画・設計・開発・運用を支援し、また、サイバーセキュリティ対策の調査・分析・評価を行い、その結果に基づき必要な指導・助言を行う者」(同抜粋)として位置付けられている。国際情報学部の学びを最大限に生かし今後の本学部を担う人材として、本奨励賞に推薦する。
富島 悠介	国際情報学部 3年	当該学生は、1年次から積極的かつ計画的な学修を継続して進めており、ゼミ活動においては、「情報処理学会」での発表を行い、学生奨励賞を受賞するなど、国際情報学部を牽引する学生のひとりとして活躍してきた。このたび、当該学生は今年度、「応用情報技術者試験」に合格した。本試験の合格者は「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」(実施団体:情報処理推進機構WEBサイト抜粋)と位置付けられており、本学部卒業後の活躍も大いに期待される。人物も申し分なく、国際情報学部を代表する学生として、本奨励賞に推薦する。
橋本 葵	国際情報学部 1年	当該学生は、本学部への入学前から「情報」に関する学修を進めており、高校3年次には、情報処理技術者試験のうち、「ITパスポート」と「基本情報技術者試験」への合格も果たしている。本学部に入学期後、正課における知識・スキルの習得と正課外における弛まぬ自学を継続し、このたび、当該学生は今年度の「応用情報技術者試験」に合格した。本試験の合格者は「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」(実施団体:情報処理推進機構WEBサイト抜粋)と位置付けられており、本学部卒業後の活躍も大いに期待される。人物も申し分なく、国際情報学部を代表する学生として、本奨励賞に推薦する。
真辺 龍	国際情報学部 3年	当該学生は、データ分析に関する職業への就職を目指して学修・研究を進めており、ゼミ活動においては、学会発表を複数回経験する等、精力的に学修・研究を行ってきた。このたび、当該学生は今年度、「応用情報技術者試験」に合格した。本試験の合格者は「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」(実施団体:情報処理推進機構WEBサイト抜粋)と位置付けられており、本学部卒業後の活躍も大いに期待される。人物も申し分なく、国際情報学部を代表する学生として、本奨励賞に推薦する。
さん な お 大 倉 伶 果 (他 2 名)	法学部	「基礎演習1(麻尾陽子ゼミ)」では、授業の一環としてコンテストへの参加を推奨しており、ゼミ生が積極的にチャレンジしている。コンテストへの参加は必須ではない中でも、「チーム:さんなお」の学生たちは参加を決意し、協力して準備を進め、アイデアを出し合って提案をまとめ上げた。審査委員からは、「コロナ禍で起きた若者の変化をとらえ、NHKが若者を対象にしたワークショップを実施するという検討は良いと思う。」との評価をいただいている。以上を踏まえて、本賞の受賞に相応しい候補者チームとして推薦したい。
マカロニ's 中 村 優 果 (他 2 名)	法学部	「基礎演習1(麻尾陽子ゼミ)」では、授業の一環としてコンテストへの参加を推奨しており、ゼミ生が積極的にチャレンジしている。コンテストへの参加は必須ではない中でも、「チーム:マカロニ's」の学生たちは参加を決意し、協力して準備を進め、アイデアを出し合って提案をまとめ上げた。審査委員からは、「NHKのリソースを選挙に活用し、若者の投票率を改善しようとした取り組みは有意義であり、内容やユーザビリティもシンプルに構成されていて良い。」との評価をいただいている。以上を踏まえて、本賞の受賞に相応しい候補者チームとして推薦したい。
中央大学経済学部 伊藤篤ゼミナール 原 香織(他1名)	経済学部	本発表は、国内でICT化が遅れているセクタのひとつである農業分野をICTとAIを利用して活性化させることを目指したものである。データ収集装置を自作した上で、牧場の牛に取り付けて行動データを取得し、データを分析しており、ブラックボックスの部分がないため、詳細な解析ができています。また、本研究の全体像を記述した論文は、9月に開催された認知科学の国際会議Cognitive Infocommunication 2022に採択され(Kaori Hara, et. al. "Classification of Cow's Behavior during Grazing by AI")、候補者が発表しており、学術的にも評価されている。
中央大学和田光平 ゼミナール 柳原 一翔(他4名)	経済学部	本発表会は、大学コンソーシアム八王子加盟の大学等で学ぶ学生が、日頃の学修の成果を発表して新たな価値を発見・創造し、大学等や八王子地域の発展に寄与することを目的としています。今年度は過去最多の発表数であり、特に当該学生を含むチームが発表した「市政提案セッション」では28件の発表中、最優秀賞1件、特別賞1件ですから、特別賞は最優秀賞に次ぐ、実質的には最優秀賞に相当するものと思われます。当該チームは、公園の在り方を基本的なところから見直し、マイナースポーツ団体との連携により、少子化時代の子どもの健全な成長や社会性の醸成に資する市民公園の有効活用を提案したことが審査員に高く評価されました。

中央大学経済学部和田光平ゼミナール 梶谷班 樋口 開 (他4名)	経済学部	本発表会は、農業、農畜産物、食料、食品、料理、生活、地域社会、農協等の研究を行っている大学生が、日頃の学修の成果を発表するもので、「学術的研究分野」と「実践的研究分野」の2つがあり、今年度は全国から14大学が参加しましたが、当該学生を含むチームは「実践的研究分野」において中央大学のチームとして今回唯一の授賞対象となり、審査員特別賞が授与されました。当該チームは、障がい者雇用制度の隙間に置かれがちなグレーゾーンにある者の就労促進や離職率低下を図るため、農業に着目し、就労後のケアも含めた総合的な雇用システムを具体的に提案したことが高く評価されました。
商学部 渡辺ゼミ チーム STARTAN 内田 あや (他6名)	商学部	SPJは2011年から毎年開催され、日本スポーツ産業学会が主催する学術的なプレゼン大会である。本年度の学生参加者数は278名(22大学から53グループ)であり、日本におけるスポーツ政策やスポーツ産業に関する大会としては最大規模である。優秀賞を受賞したグループは、約1年間に及ぶ研究活動の中で、プロ野球のチームの地域貢献活動の相対的な少なさを問題意識に据え、実際に読売ジャイアンツのファームの試合において地域課題の解決に資するイベントを開催し、当該イベントの効果をヒアリング調査や大規模サンプルの統計分析を駆使して実証している。具体的には、プロ野球組織における地域貢献活動が当該組織に対するファンの愛着を高め、結果として経営基盤の充実につながることを明らかにした。そして、その分析結果に基づき、プロ野球組織に対して、地域貢献活動を推進すべきであるという積極的な提案を行っている。
木原 康生 (他3名)	理工学部	理工学部情報工学科はチームプロジェクト科目「画像・映像コンテンツ演習」群にて、コンテンツの企画、デザイン、構築、実行、評価の一連を学ばせ、学生のコンピテンシー向上を図っている。候補者4名は本科目でチームを組んだ経験を活かしてコンテストに出場し、グランプリを獲得した。これは、本学における学習成果を積極的に社会に還元する取組であり、本学建学の精神「実地應用ノ素ヲ養フ」の表れと言え、他の学生に対する模範的行動である。よって奨励賞に推薦する。

第 24 回 法曹会賞

本賞は、中央大学法曹会が、毎年卒業する学生のうち、学業成績優秀または文化活動に顕著な功績を挙げた卒業生に対して授与するものです。

市野 陽 己	法学部 4年	在学4年次に司法試験合格
貝羽 莉 緒	法学部 4年	在学4年次に司法試験合格
竹村 玲	法学部 4年	在学4年次に司法試験合格
吉田 有輝	法学部 3年	在学3年次に司法試験合格

第 37 回 南甲倶楽部賞

本賞は学員会南甲倶楽部が、毎年卒業する学生のうち、学力優秀にて学問研究、文化活動、体育活動及び社会活動などの分野において顕著な成果を挙げ、本学の名声を高めると共に本学の発展に寄与した者を対象に授与するものです。(南甲倶楽部は実業界で活躍するOBが組織する団体)

村山 雄基	法学部 4年	法学部卒業生の中で、在学中の学業成績が優秀でありかつ所属ゼミでの活躍も顕著で、指導教員及びゼミ生からの信頼も厚い。
津島 大樹	経済学部 4年	2年次には学長・学部長賞奨学金制度における学部長賞奨学生に採用され、3・4年次には経済学部給付奨学金<自己推薦>奨学生に2年連続して採用されており、学業成績が極めて優秀である。また、ゼミ活動においても積極的に活動しており、「移民がもたらす問題と日本がとるべき対策」に関する演習論文を書き上げた。学業に取り組むその姿勢は、学生の模範となるに相応しく、南甲倶楽部賞受賞候補者として適格であると判断し、ここに推薦する。
浅野 翔太	商学部 4年	本年度商学部卒業生の中で学業成績が優秀であり、難関とされる公認会計士試験に在学中に見事合格した。
中藤 樹	理工学部 4年	推薦する学生は向学心に富み、優れた素質を有している。学部の成績は優秀で、本学大学院進学予定であり、研究にも意欲的に取り組んでいる。今年の3月にはベルギーのブリュッセルで開催された心理学分野の国際学会、2023 International Convention of Psychological Science (ICPS)に演題が採択され、“Can Three-Good/Bad-Things Make Immediate Effects?”という題目でポスター発表を行った。また、3年次の1月にはTOEICで755点を取得し、4年次の8月には統計検定2級を取得するなど、自己研鑽に励んでいた。人物・健康にも優れ、将来社会にとって有為な人物として活躍することが大いに期待される。
深澤 千尋	文学部 4年	深澤さんは、入学以来、大変熱心に授業に参加され、優秀な成績を収めてこられました。ヤングケアラーについて、支援団体等を訪問し、インタビューを実施した卒業論文は、専攻の中でも大変高い評価を受けました。また、子どもを対象として行われているボランティア活動においても中心的な役割をつとめられるなど、在学中、多方面で活躍されました。以上から、南甲倶楽部賞にふさわしい方であるとご推薦いたします。
菅井 美妃	総合政策学部 4年	菅井美妃さんは総合政策学部の中でも卓越して優秀な成績を収め、GPAは在籍する国際政策文化学科において一位である。ゼミ活動にも積極的に取り組み、表象分析を手法として、日本の漫画文化におけるジェンダー規範とその変容について論じた卒業論文も非常に秀逸なものである。よって、菅井さんを南甲倶楽部賞受賞の候補者として推薦する。
杉山 拓海	国際経営学部 4年	国際経営学部の授業の多くは英語で提供されており、学生たちは「授業内容の理解」と「英語の理解」という2つの大きな壁に日々挑戦しています。1期生として入学された杉山拓海君は、そのような環境の中で学業に真摯に取り組み、全ての授業で優秀な成績を収めました。また、国際経営学部で身につけた知識と英語力を活かして英会話サービスのビジネスを展開するなど、座学だけに偏らない、実践的な経験も積んできました。卒業後は中央大学大学院経済学研究科に進学し、高度な知識と語学力を兼ね備えた人材へと成長することが期待されています。学力・人物ともに優れ、他の学生の模範として「行動する知性」を実践してきた杉山君を、南甲倶楽部賞にふさわしい学生として強く推薦いたします。
王安 理	国際情報学部 4年	王安理さんは、国際情報学部教育の3本柱である、AIをはじめとしたITに関する勉学、情報法制に関する勉学、国際コミュニケーションに関する勉学すべての分野で優れた成績を収め、情報処理学会、社会情報学会での学会発表も行い、それらの研究を踏まえ、大学院生のレベルに匹敵する非常に優れた卒業論文を完成させました。卒業後は、東京大学大学院に進学し、研究を深め、グローバルな舞台での活躍を志す学生です。国際情報学部1期生として、後進の模範になりうる学生であり、南甲倶楽部賞にふさわしい学生として、強く推薦させていただきます。次第です。

第 18 回 東京白門ライオンズクラブ学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、有為な人材の育成に資することを目的として、博士課程前期課程・修士課程に在学する外国人留学生のうち、優秀な成績をもって課程を修了し、かつわが国と出身国を結ぶ架け橋として活躍が囑望される者に授与するものです。

楊 関 鴻	文学研究科 博士前期課程 社会学専攻	人びとの生活に欠かせない 地域コミュニティの実態や課題から考察した研究成果は、中国のみならず日本や世界各地の社会にとって示唆に富むものであり、専攻の先生方からも非常に高く評価されている。また同氏の人柄はとても素晴らしく、専門的知見からの正確な認識や分析だけでなく、協調性をベースにリーダーシップを発揮するなかで課題の解決に向かってゆくことができ、今後の活躍も期待される。
-------	--------------------------	---

第 9 回 東京白門ライオンズクラブ法務研究科学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、将来法曹として活躍が期待される人材の育成に資することを目的として、社会実務等の経験を有して法務研究科に入学し、在学中の業績が顕著と認められた学生に授与するものです。

矢 島 哲 治	法務研究科 法務専攻（専門職学位課程）	社会人学生で、刑事系科目の授業に熱心に臨み、成績も優秀。クラス仲間からも、社会人であることを生かしてリーダーシップを発揮し、クラス仲間からも厚い信頼を得ています。法曹として活躍することが期待される。
---------	------------------------	---